



「造形」は彫刻にとって重要な要素でした。しかし現代美術の動向、または3Dスキャンや3Dプリントの精度が向上し造形だけで彫刻は成立しなくなってきています。もちろん過渡期であるためまだまだ造形を主流に彫刻の表現を行っている彫刻家は多くいます。

例えば立体を正確に捉える3Dスキャンや3Dプリントの精度が向上し、『物』として造形のクオリティーが人から機械に移行し身近な立体が全てプリンターで出力できるようになったら彫刻はどうなってしまうのでしょうか？造形技術はほぼ3Dデータ作成に代わりここで活躍する彫刻家も多くなることでしょうか？果たしてそれだけが彫刻なのか？造形だけではない彫刻こそ今後求められる純粋彫刻の学問として研究されその研究機関こそ東京藝大の彫刻科となります。

彫刻＝造形

彫刻専攻の新しい試み

2022年4月から、河合塾美術研究所新宿校彫刻専攻では新たに

将来、社会で活躍できる新しいタイプの彫刻家を育成するプログラムを新規に導入

美大受験の対策だけでなく、大学進学・卒業後、社会で活躍できる彫刻家になるための素養を惜しみなく提供します。

「将来、社会で活躍できる彫刻家の育成・教育を行うための少人数制」

変化し続ける入試課題に対応するため、従来からの画一的な技術指導だけではなく、個人個人の過程を重視し、なぜ石膏デッサンや模刻が必要なのか等、提供する課題を通して、社会で活躍できる彫刻家になるために必要なスキルを個人個人にあったプログラムで提供する個別対応・少人数制を導入します。

入試の何が変わるのか？

東京芸術大学の入試はこれまで、対象を観察し、しっかりとその対象を写しとる技術（「デッサン力」）といった、いわゆる造形技術を最大の評価ポイントとしてきました。ゆえに、表面的な造形技術を画一的に指導しても問題なく対策が取れました。

しかし最近の出題傾向では、これまでの造形技術を必要とされながら、「いかに対象と向き合い彫刻表現として回答できるか」がポイントとなり、造形技術の他に専門的な知識が求められるようになってきています。

MBA から MFA

ビジネスの世界では MBA (Master of Business Administration / 経営学修士) の取得がキャリアとして、当たり前となっています。近年、多様性を求めまた他企業との差別化を図る目的で MFA (Master of Fine Art / 美術学修士) を取得者を採用する傾向があります。芸大、美大でもこれまで直結しやすいデザイン科などでは一般企業への就職率は高い水準で行われてきました。近年ではいわゆるファインアート科、絵画や彫刻からも一般企業に就職をする学生が増えています。ここには上記であげた理由が考えられます。

河合塾では大学入学の実技指導に加え、彫刻的な事物の捉え方を指導し、社会構造や物事の成り立ちを理解し社会で活躍できる新しいタイプの彫刻家を育成します。

まずは個別相談から始めよう！

フリーダイヤル

0120-327-414

「彫刻科相談」とお伝えください。

彫刻科のプロ講師が懇切丁寧に相談に応じます。

- ・いつでも歓迎！ご希望日をお教えてください。授業日であればいつでも相談可能です。
- ・無料体験が可能

最低限の道具は貸し出します。描画材など消耗品は別途購入となります。

当日でも時間が合えばその場で授業体験が可能です。